

■ 広報座談会

植木を家庭に生かそう

南国市へ行ってみや、町中が緑でいっぱいぜよ。開発のツチ音は、わたしたちの南国市にも押しよせられ、農地はつぶれ、山は赤肌に変身し、生活環境を破壊核家族化や高知市のベトナムとして後免町周辺の住宅建設など、自然をいっぱいにはぐくんて育った、わが

南国市も貴重な緑を失ないつつある。

せめて家庭に緑のいこいの場を。そして、市民ぐるみの植木運動で、緑いっぱいの町づくりを。そんなことを願いながら座談会の幕はあいた。

歴史の古い

左右山の植木

植木を家庭に生かそう。南国市を緑でいっぱいの町にしよう。というところで植木のお仕事になさっていただけるみなさん方にお集りいただき「植木の話あれこれ」をお聞かせいただきたいと思います。

私たちのひじいさんの時代（明治初期）、南国市には左右山とか三畠、後免、笠ノ川などの産地がありました。一番歴史が古いのは左右山です。

現在の後免、長岡をひっくるめ

たところが植木の発祥地で盛んな所でした。

日曜市は藩政期からあったそうですが、明治中期から左右山へ出てくるつじなどを日曜市へ出しはじめたのが商売としての植木のはじまりです。

その時分には桑苗が盛んで、それに付随して植木を売っていたのが、植木の方がよく売れだして主流になってきた。

県下で、左右山につく産地は？

円行寺ではさつきをつくっていましたが、山の上の務のかかる所が条件がよいのですから。

大正が最盛期という話ですが、今の方が盛んなように見えますが、大規模にやりだしたのは、ここ

十年ぐらいですね。戦争で一時中断していたのが、戦後経済の発展につれ栽培面積も飛躍的に伸びている。

盛んといっても当時は交通が発達しなかったものだから「でんちゅう」という竹籠に入れて赤岡橋や遠い所では美良布あたりへ売りに行ってた。それくらいのものですから量的にいえばわずかだったでしょうが、熱意がありましたね。七十七、八十年前のものと思われ母木が、まだ二、三本残っています。

浜口雄幸の緊縮当時、植木どころの騒ぎではなかったが辛抱してやり続けて果敢的に残ったのが左右山だ。



■ 話された人たち

《左右山植木組合》

村井 教 喜
島井 一 太
島井 秀 幸

《南国市造園植木組合》

武内 武 男
大石 正
佐々木 馨
田 勝 重

《広報委員》

山本高一・藤本茂樹・山崎俊雄・浜田弥芳・岡崎俊一・神田彰・田中隆夫・井上真実



● みどりがいっぱいの町にしよう.....

市特産の植木を

全国にキャンペーン

いるのでしよう。

一本二百万円の

五葉の松も

現在、左右山にある一番値のする木はどのくらいですか。

さあ……。二百万円ぐらいですよ。か。五葉の松です。

今、大衆的に人気のある木はどんなものですか。

一時的な流行物は長続きしません。が、実質的によいものは十年たっても何十年たってもすたれない。たとえ、市特産の植木を育て

良いものができる

山取りの苗木

ねずみもちは実生（みしよう）ですから、量産ができますが、商品価値は少ないですね。

《実生》つぎ木やさし木に対して草木が種から芽を出して成長すること。

《山取り》山などの野生に生えている木をとってのこと。

私たちはいろいろな品種をもって

て、全国的にキャンペーンを行うことなど、どうですか。

この木であれば南国市には、十円から千円まで広範囲にある、という特産品があればよいのですが。

うまめがし、山もも、くすの木、ねずみもちなど、つくれば売れるじやないかとわれわれです。九州の園芸試験場へ行つたとき、「幡多には、ねずみもちがたぐさんあるが、なぜあれをやらないのか」といわれた。

ねずみもちとはどういうものですか。

ねずみの糞のような実がなり、別名とらばともいいます。

高知の市営住宅や県営住宅のかいに使っていますね。公害に大変強いそうなんです。

高知でつくれるものはどこでも作っているわけですね。

山取りの苗木は良いものがありますが、山取りと実生は、私たちが見たらすく違いがわかります。

▼どこでわかりますか？

▼実生の場合は一カ所から枝が四方に出ています。やはりこれは商品価値がない。

▼実をまいて肥料をやつてパツと太らずから山で鍛えられたものと違ってよい木ができません。

▼量産はできませんが、下火になるためです。

▼盆栽用の五葉の松が一時はやっていきましたがはや下火です。

▼「土佐五葉」といわれて一時は東京などにどんどん出ていました。

▼五葉の松、一升が二万円ほどしていました。

▼需用が少ないと価格も暴落です。

▼最近、宅地造成などで緑化緑化といわれ、県内でも休耕田などを利用して、うまめがしやくすの木

の実はよく大にまいて作っている。こ二、三年すると大きくなって商品価値ができるが、商売の上からいうと緑化用樹は生産量が多くて見通しはそう明るくはない。

「植木熱」むかし中年

いま若人

らい取り引きのある所がありますから。

▼技術の伝達は年配がいるからむつかしいと思えますが、最近、弘南農業高校が高知園芸高校と名前を変えて、そこに造園科ができています。県下のほとんどの農業系の学校が先細りということを考えて、技術ということが重要視されると思えますが、農業高校へも造園科というようなのは必要ないでしょうか。

園芸高から実習生も

▼昨年、高知園芸高校から実習生を受け入れてくれたかというところで十一月二十六日、十二月一日まで各家庭へ二、三名住み込みで受けいれました。

▼造園科の生徒は去年半数が県外に就職が決っていたらしいですね。

▼最近ではビルの多様化がすすみ、ホテルなどの屋上庭園は専門の技術者が必要になっていましてから。

市価の二、三割安に人気

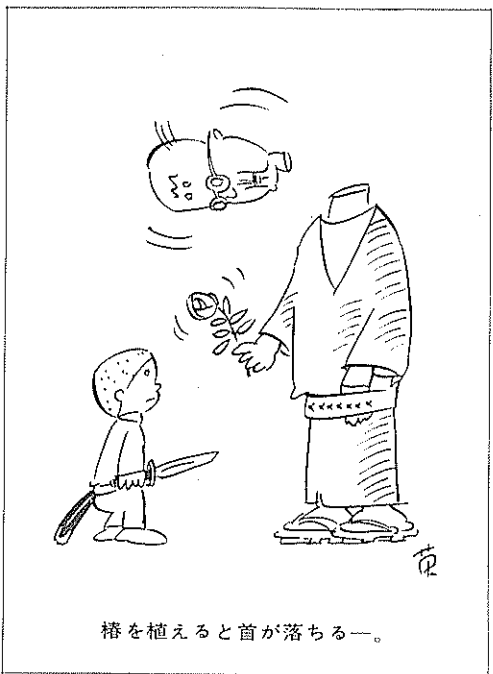
▼市内に二つの植木生産組合があるそうですが、活動状況はどうですか。

▼おとどし三月に南国市植木生産販売協同組合ができました。情報交換や技術的な問題を話しあつたり、事業活動として、市役所の前で毎月第三日曜日に市を開いています。

▼左右山の植木生産組合のお世話をしていただいています。組合員数は十二人。栽培面積は三十ヘクタールぐらいだと思つて、三月の緑化週間には高知城の大手門で市を開きます。市価の二、三割安です。よく人気があります。

▼私の方は造園業の人が多く組合員数は十四人。市内だけでなく、野市、安芸の人も入っています。昨年、長岡農協に緑化樹生産組合を置いて活動しています。私たちの方では多種類は取りあつかわずに一種類だけ量産しています。

▼植木の趣味を持っているのは、昔は中年以上でしたが最近若人も多くなり植木にとって明るい傾向です。



植木を植えると首が落ちる。

▼好みといいますが、迷信といえますか、人によって嫌う木がありますね。

▼椿を植えると首が落ちるとか、椿の花は首から落ちるとか、金を食うとか。(笑)

▼黒松は「苦勞待つ」で、南に松を植えると「難待つ」で。(笑)

▼藤やぶどうを植えると家運が下向くなんてこともいます。ふさが下っているからでしょうか。

▼梨を南側に植えると「難なし」。

▼植木を買ってきて枯れたり、ありつかなくなったりというようなのは……。

▼信用が第一ですから十分根回しをして植えかえまして、枯れるようなものは絶対に売れません。虫がついたり、天候の具合で枯れることはあるでしょうが……。

▼よく、いっぱい花の咲いているさつぎを買ってきたが、全然咲か

なくなつたといわれます。これは花すみの時に刈り込みをせず、新芽がでた時に消毒してやらんからです。

▼はあ……うちの場合はどうもそれじゃよ。(笑)

黒松は「苦勞待つ」 南の梨は「難なし」

▼後継ぎはありますか？

▼心配な点もありますが、洋服きて車をのりまわりたいのが若い人の気持ちでしょうから畑にすわつて草ひいてというのには……。

▼しかし、一度は都会に憧れが出てきますが、Uターン現象ですか、帰ってきて植木をやっています。

▼緑にかまれて仕事しているの長生きしませんか？

▼ええ、しかし植木屋というのは

らどうかといわれますが、それは非常に努力もいるし、土地もいりまして、伝統の技術をいかして、広い種類を手塩にかけて育てているのが現状です。

市民ぐるみの植木運動

市民ぐるみの植木運動

▼この際、毎年一回、家庭に一本の木を植える運動などやりたいですね。

▼うちの市は田園都市といわれるものの、宅地もふえ、広い道もつき、いわゆる開発が進んでいますから、環境整備というか、緑化運動というか、市民ぐるみの木を植える運動が大切になると思つて、その際には、業者としても安い価格で植木をお世話する努力をと考えています。

▼微々たるものですが、市内の各学校の子供のキャラバン隊に組合から毎年苗木を寄付しています。今年は桜でしたか。

▼それから老人ホームなどにも、

▼「あの南国へ行ってみよや。町中緑ぜよ」といわれるくらいになれば、こりや素晴らしい。

▼ぜひとも市民ぐるみで緑を守りふやしていく努力をしていきたいものです。

今日はお忙しいところどうもありがとうございました。

■植木のせり市

毎月第3日曜日 市役所北側駐車場で

■土曜日

毎週土曜日 山本産婦人科北側広場で

毎年一回、家庭に一本の木を植えましよう



■顔・あなたの顔を差しあげます

広報紙にのったあなたの写真を差しあげます。ご希望の方は企画財政課秘書広報係へ、ハガキ、電話(3-2111)でどうぞ。